

「どの子ども伸びる授業の改善」

～特別支援教育の視点を生かした授業づくり・環境づくり～

I 研究の内容

1 研究の目標

特別支援教育の視点・手法を取り入れた指導方法について研究・実践し、誰もがわかる授業づくりを通して全ての子どもの学力の向上をはかる。

2 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

- ア 児童の実態把握（ひまわり教室対象児、オープン教室対象児を中心に）
- イ 発達障害児（特別支援教育の視点）についての理論研究（講師招聘）
- ウ ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践
- エ 特別支援教育の視点に立った学習環境の整備

※ユニバーサルデザインについて

「すべての人にとって、できる限り利用可能であるように、製品、建物、環境をデザインすること」と定義されており、もともと建築や工業デザイン分野の用語であった。ユニバーサルデザインとは、以下の7項目を原則としている。

- ① 誰にでも、公平に利用できること
- ② 使う上で自由度が高いこと
- ③ 使い方が簡単ですぐわかること
- ④ 必要な情報がすぐ理解できること
- ⑤ うっかりミスや危険につながらないようなデザインであること
- ⑥ 無理な姿勢をとることなく、少ない力で楽に使用できること
- ⑦ アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

（「小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり」東洋館出版社）

3 具体的実践

(1) 理論研究

特別支援教育の視点を生かした児童理解・授業改善等について

講師 県新しい学校づくり推進室

岡 輝彦指導主事

甲州市発達相談員

大塚直美臨床心理士

南アルプス市立落合小研究主任

河野瑞穂教諭

(2) 各組織研究

ア 授業研究部会

・ユニバーサルデザインを取り入れた授業の工夫

イ 環境研究部会

・学習に集中できる学習環境の整備

・学習規律の統一化

ウ 特別支援研究部会

- ・支援の必要な児童の実態調査
- ・指導計画の作成

(3) 授業実践

ア 低学年ブロック

第3学年 国語「すがたを変える大豆」 授業者 雨宮 正倫

イ 高学年ブロック

第4学年 理科「物のあたたまりかた」 授業者 内田 厚子

II 成果と課題

1 成果

- 授業にユニバーサルデザインを取り入れることにより、児童が集中して学習に取り組むことが増え、学力の向上に役立った。
- 児童一人一人に今まで以上に目を向けるよう意識が高まり、より細かな指導を心がけるようになった。
- 実践授業を通して学習規律の徹底は授業の効率を上げる上でも必要だと再確認した。学級集団づくりをする上でも今後も継続して指導していきたい。

2 課題

- 誰もが理解できるように工夫することは大切だが、どこまで細かく手助けをしていくのか、児童自身が努力するべき部分との兼ね合いを考えながら指導をしていきたい。
- 学習規律やホワイトボードの使用法など、まだまだ全体で徹底できていない面がある。今後の課題として取り組みを続けていきたい。

III 成果物



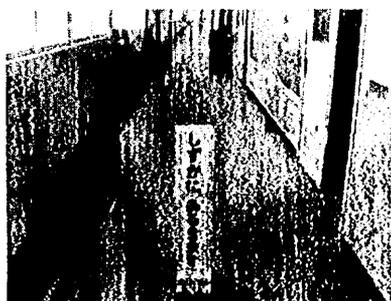
A



B



C



D

- A 授業の流れが視覚的にとらえられるようにする掲示板
- B・C 児童の集中力を高めるように、教室前面のたなにはカーテンを、また、教室全面には掲示をしないようにした。
- D 廊下の歩き方の注意について、自然に目に入るように工夫した

(研究主任 伊藤 淳司)